考古学研究室報告

第 51 集

越高遺跡

夫婦石遺跡

2015年度　考古学研究室の足跡

2016

熊本大学文学部考古学研究室

表 紙 写 真：越高遺跡（北東から）
裏表紙写真：夫婦石遺跡作業風景

序　文

二〇年ぶりに学生とともに実習発掘を行った。歳をとったせいか、学生諸君が幼く見えて、調査中ハラハラのしどおしであった。

対馬での生活は、学生たちにとっては不便極まりないものであったであろう。コンビニもなく、携帯が通じないことを辛かった思い出の一つに挙げた学生もいた。彼らからしてみれば、不便さや非日常を楽しむ余裕などなく、現場での慣れない肉体労働や初めての共同生活の不安さも加わって、あっというまに「辛い実習期間」が過ぎたのかもしれない。

しかし、これも経験である。考古学実習の主たる目的は発掘調査や遺物整理を通して、技術を磨き知識を蓄えることであるが、発掘中の生活そのものが、いずれ訪れる社会生活のための訓練ともいえる。今にして思えば、私も三十数年前は目の前の学生たちと何ら変わりなかった。当時の先生方の苦労が今になってわかった気がする。そして、それらを引き継いでこられた同僚の先生方にも頭の下がる思いである。経済的にも精神的にも苦痛を強いられながらも、実習発掘を続けられるのは、これらの経験が学生たちにとって成長の糧となればとの強い願いがあるからこそである。

最終日の撤収は台風の洗礼を受けた。強い雨風の中、全員何事もなく帰れたことは何よりであった。個人的には、すべてにおいてぎこちなかった彼らが一つの目的に向かって次第に団結し、それぞれの立場と役割を認識し、不器用ではあるが仕事を完徹したことは喜ばしいことであった。

ただし、掘られる遺跡にとってはこちらの感傷などどうでもよいことで、それなりの学術的成果を挙げることが発掘調査の代償でもある。今回、学術上きわめて貴重な越高遺跡と夫婦石遺跡を調査の対象としたのは、大陸系穀物の伝播過程や時期、日韓両地域の交流の実態などの解明のためであり、遺跡が波浪によって消滅しかかっているという懸念も背中を押した。調査はまだ緒についたばかりで、遺跡が思いのほか残りがよいということがわかっただけである。学生達には、自らが調査している遺跡がいかに学術上貴重であるかを認識してもらうため、現場や整理中に国内外から専門家の先生方に来ていただき、その意義を解説していただいた。学生たちにとってはよい刺激となったであろう。遺物の分析を引き受けてくださった先生方とともに感謝申し上げたい。

対馬市教育委員会の尾上博一氏、阿比留伴次氏をはじめ、地元の方々にはたいへんお世話になった。学生たちの頑張りが、対馬の歴史解明に少しでも役立てば幸いである。

2016年1月6日

小畑　弘己

越高遺跡
夫婦石遺跡

夫婦石遺跡現地説明会風景　2015/ 8/23

例　言

1．本書は、長崎県対馬市上県町越高に所在する越高（こしたか）遺跡（Ａ地点：越高30番　Ｂ地点：越高58番）および同久原に所在する夫婦石（めおといし）遺跡（久原47番）の調査報告書である。
2．調査期間は、2015年８月10日～24日の計15日間であり、両遺跡の調査を並行して実施した。
　越高遺跡：2015年８月16日～24日　　夫婦石遺跡：2015年８月10日～15日、19日～24日
3．調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、対馬市教育委員会と共同で実施した。
4．調査担当者は、小畑弘己（熊本大学文学部教授）と山元瞭平（同社会文化科学研究科博士前期課程１年生）である。
5．越高遺跡の名称について、対馬市教育委員会・長崎県教育庁と協議し、遺跡名を「越高遺跡」とし、1976年調査地点を「Ｂ地点」、1978年調査地点を「Ａ地点」と整理した。
6．越高遺跡および夫婦石遺跡に対する調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。

越高遺跡　第１次調査　調 査 年：1976年12月11日～17日
　調査内容：Ｂ地点の発掘調査
　調査主体：上県町教育委員会・長崎大学医学部解剖学第二教室
　第２次調査　調 査 年：1978年７月16日～22日
　調査内容：Ａ地点の発掘調査
　調査主体：上県町教育委員会
　第３次調査　調 査 年：1996年８月26日～９月13日
　調査内容：Ａ・Ｂ地点の発掘調査
　調査主体：長崎県教育庁
　第４次調査　調 査 年：2015年８月16日～24日
　調査内容：Ａ・Ｂ地点の発掘調査
　調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会

夫婦石遺跡　第１次調査　調 査 年：1988年11月14日～17日
　調査内容：発掘調査
　調査主体：長崎県教育委員会
　第２次調査　調 査 年：1989年８月19日～20日
　調査内容：発掘調査
　調査主体：対馬文化財調査委員会
　第３次調査　調 査 年：1993年３月８日～18日
　調査内容：発掘調査
　調査主体：長崎県教育委員会
　第４次調査　調 査 年：2015年８月10日～15日、19日～24日
　調査内容：測量調査・発掘調査
　調査主体：熊本大学文学部考古学研究室・対馬市教育委員会

7．本書におけるレベル高はすべて海抜を表し、方位は真北を示す。
8．土層の色調は『新版標準土色帖』による。
9．第１図は国土地理院発行の５万分の１地形図（三根）、第９図および第21図は同発行の２万５千分の１地形図（鹿見）を複製したものである。
10．越高遺跡第２次調査の際に出土した土器は現在、対馬市教育委員会が所蔵している。土器の実測図・写真の掲載については対馬市教育委員会の許可を得た。
11．出土土器の胎土分析および出土石器の蛍光Ｘ線分析に際し、鐘ヶ江賢二氏（鹿児島国際大学）と角縁進氏（佐賀大学）より玉稿を頂戴した。
12．調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
　尾上博一（対馬市教育委員会）、寺田正剛・中尾篤志（長崎県教育庁）、古澤義久（長崎県埋蔵文化財センター）、田中聡一（壱岐市教育委員会）、柴田　亮（大村市教育委員会）、甲元眞之、水ノ江和同（文化庁記念物課）、河仁秀（釜山市近代歴史館）、野中　元（写真家）、阿比留伴次、小田俊輝、佐伯惠清、惣島長生、豊田佐伊士、本多　仁、本田武美、対馬市教育委員会、長崎県教育庁、長崎県立対馬青年の家
13．調査参加者は以下のとおりである。
　小畑弘己（熊本大学教員）、山元瞭平（同社会文化科学研究科博士前期課程１年生）、譚　永超（同文学部研究生）、豊永結花里・秦　翔平・幣島莉香（同文学部４年生）、大隈彩未・白岩加帆・竹村南洋・前田湧生・松浦正朋（同文学部３年生）、新垣　匠・嘉戸愉歩・古賀菜々美・佐々木幸佑・稗田　翔（同文学部２年生）、廣重知樹・藤田理恵・三浦　彩・安原真衣・山下　葵（同文学部１年）
14．本書の編集は小畑弘己の監修を受けて山元瞭平が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本　文　目　次

一　位置と環境…… 1

1．地理的環境……稗田　翔…… 1

2．歴史的環境…… 3

（1）対馬の原始・古代 …… 3

縄文時代……新垣　匠…… 3

弥生時代……古賀菜々美…… 3

古墳時代……　〃　…… 4

古代以降……佐々木幸佑…… 4

（2）遺跡立地の変遷 ……　〃　…… 5

二　越高遺跡の調査…… 9

1．調査経過……10

（1）遺跡名称の整理 ……山元瞭平……10

（2）既往の調査（第1～3次調査）……譚　永超……10

（3）今回の調査（第4次調査）……山元瞭平……12

2．越高遺跡A地点……13

（1）調査区の設定 ……嘉戸愉歩……13

（2）遺跡の層序 ……　〃　……14

（3）調査所見 ……大隈彩未……16

3．越高遺跡B地点……17

（1）調査区の設定 ……松浦正朋……17

（2）遺跡の層序 ……　〃　……17

（3）調査所見 ……白岩加帆……19

4．出土遺物……前田湧生・山元瞭平……20

（1）土器 ……20

（2）石器 ……22

（3）炭化物 ……22

5．第2次調査出土土器の再検討……山元瞭平……25

（1）出土土器の概要 ……25

（2）出土土器の検討 ……25

（3）小結 ……26

三　夫婦石遺跡の調査……29

1．調査経過……30

（1）既往の調査（第1～3次調査）……佐々木幸佑……30

（2）今回の調査（第4次調査） ……山元瞭平……31

2．調査所見……竹村南洋……32

3．出土遺物……前田湧生・山元瞭平……34

（1）土器 ……34
（2）石器 ……36
四　自然科学分析……37
1．放射性炭素年代測定……パレオ・ラボ……37
2．越高遺跡・夫婦石遺跡出土土器の岩石学的分析……鐘ヶ江賢二……40
3．石器石材の産地同定……角縁　進……47
五　まとめ……山元瞭平……50

図　版　目　次

図版１　１　越高遺跡遠景（東から）
２　Ａ地点近景（北東から）
３　Ｂ地点近景（南東から）
図版２　１　Ａ地点海岸部土層断面（東から）
２　Ａ地点谷部土層断面（北から）
３　Ａ地点谷部２層遺物出土状況（北から）
図版３　１　Ｂ地点海岸部土層断面（南東から）
２　Ｂ地点谷部土層断面（南西から）
３　Ｂ地点谷部６層遺物出土状況（南西から）
図版４　１　夫婦石遺跡遠景（南東から）
２　調査区遠景（南東から）
３　北壁土層断面（南西から）
図版５　１　越高遺跡Ｂ地点出土土器（１）
２　越高遺跡Ｂ地点出土土器（２）
３　越高遺跡Ａ地点出土土器
４　越高遺跡出土石器（１）
図版６　１　越高遺跡出土石器（２）
２　夫婦石遺跡出土石器
３　夫婦石遺跡出土遺物
図版７　越高遺跡第２次調査出土土器（１）外面
図版８　越高遺跡第２次調査出土土器（１）内面
図版９　１　越高遺跡第２次調査出土土器（２）外面
２　越高遺跡第２次調査出土土器（２）内面

挿　図　目　次

第１図　調査遺跡の位置……（松浦作成）…… 1
第２図　対馬の地質図（高橋1992を一部改変）…… 2
第３図　対馬の主要遺跡分布図……（古賀作成）…… 6
第４図　第１次調査　調査区位置図（坂田1978）……10
第５図　第１次調査土層断面図（坂田1978）……10
第６図　第２次調査　調査区位置図（坂田1979）……11
第７図　第２次調査土層断面図（坂田1979）……11
第８図　第３次調査　調査区位置図（東・福田編1998を一部改変）……12
第９図　越高遺跡調査区位置図……（松浦作成）……13
第10図　Ａ地点海岸部土層断面図……（大隈製図）……15
第11図　Ａ地点谷部土層断面図……（嘉戸製図）……15
第12図　Ｂ地点海岸部土層断面図……（松浦製図）……18
第13図　Ｂ地点谷部土層断面図……（白岩製図）……18
第14図　越高遺跡出土土器実測図……（稗田製図）……21
第15図　越高遺跡出土石器実測図（１）……23
第16図　越高遺跡出土石器実測図（２）……（松浦製図）……24
第17図　第２次調査出土土器実測図（１）……（竹村製図）……27
第18図　第２次調査出土土器実測図（２）……（新垣製図）……28
第19図　第１次調査Ｂ・Ｃ調査区土層断面図（副島編1992）……30
第20図　第３次調査 TP-2土層断面図（副島編1994）……31
第21図　夫婦石遺跡調査区位置図……（大隈作成）……32
第22図　調査区北壁土層断面図……（竹村製図）……34
第23図　夫婦石遺跡出土遺物実測図……（松浦製図）……35
第24図　暦年較正結果……39
第25図　越高遺跡Ａ地点出土土器の鉱物組成グラフ……43
第26図　越高遺跡Ｂ地点出土土器の鉱物組成グラフ……44
第27図　夫婦石遺跡出土土器の鉱物組成グラフ……44
第28図　越高遺跡出土土器の偏光顕微鏡写真（スケール約0.5㎜）……45
第29図　越高遺跡・夫婦石遺跡出土土器の偏光顕微鏡写真（スケール約0.5㎜）……46
第30図　黒曜石 Rb-Sr-Zr 図……48
第31図　サヌカイト Sr/Rb-Nb/Zr 図……49

表　目　次

第１表　対馬の主要遺跡地名表（１）……（古賀作成）…… 7
第２表　対馬の主要遺跡地名表（２）……（　〃　）…… 8
第３表　越高遺跡基準点（現場座標）……（山元作成）……12
第４表　Ｂ地点出土遺物点数……（白岩作成）……19
第５表　越高遺跡出土土器観察表……（前田作成）……21
第６表　越高遺跡出土石器観察表……（　〃　）……24
第７表　第２次調査出土土器観察表……（山元作成）……28
第８表　夫婦石遺跡基準点（世界測地系）……（　〃　）……31
第９表　夫婦石遺跡出土土器観察表……（前田作成）……36
第10表　夫婦石遺跡出土石器観察表……（　〃　）……36
第11表　測定試料および処理……37
第12表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果……38
第13表　分析対象の土器と鉱物組成……43
第14表　黒曜石分析値……47
第15表　サヌカイト分析値……48